

V 不登校児童生徒の学校復帰支援

1 事業目的

心理的または情緒的理由により長期欠席している児童生徒に対して、小集団による体験学習及び学力保障を中心に、集団への適応と自立を促し、学校復帰を支援する。

2 実施方針

- (1) 学校等の連携の下、適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」を統合し「教育支援センター「やまびこ」」を運営する。
- (2) 教育支援センター「やまびこ」運営委員会を開催し、学校復帰支援の充実を図る。
- (3) メンタルフレンドによる家庭訪問を実施する。
- (4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」で講演会、個別相談会を行い、不登校で悩む保護者へ助言を行う場を設定する。

3 実施内容

- (1) 教育支援センター「やまびこ」の運営
 - ・入館を希望する児童生徒がいる場合は、学級担任・学年主任・生徒指導(不登校)担当と事前に十分に情報交換をするとともに、教育相談・SC・SSWに関わる児童生徒については連携を行う。
 - ・こども福祉課、川西こども家庭センター、県立但馬やまびこの郷など関係機関との協力体制を確立し、必要に応じて連携する。
 - ・通館生の状況について、月報や電話連絡、学校訪問等で随時情報を共有し、学校復帰にむけた学校の取り組みを支援する。
 - ・適宜、教育支援センター「やまびこ」指導員による学校訪問を行う(水曜日の午後)。
- (2) 教育支援センター「やまびこ」運営委員会の開催
 - ・伊丹市の小・中学校の不登校児童生徒の実態を把握し、学校復帰支援についての研究を行う。また、不登校に関する調査・研究を行う。(年間2回予定)
- (3) メンタルフレンドによる家庭訪問
 - ・大学等との連携によりメンタルフレンド・やまびこ指導補助員の登録者を増やし、メンタルフレンド派遣希望者のニーズや教育支援センター「やまびこ」通館生の増加に対応できる体制を整える。
- (4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」の開催
 - ・不登校で悩む保護者の情報交換の場を設定する。
 - ・教育相談部での案内や、学校SCを通じて学校で周知するなど、保護者へ積極的に呼びかける。

○ 教育支援センター「やまびこ」について

① 目的

学校とは違った雰囲気の中かで、学習や集団での活動を体験させることにより、集団生活への適応を促し、学校生活への復帰を支援する。

② 活動内容

- ・個別学習(一人ひとりに応じた支援)……教科学習、読書、創作活動等
- ・集団活動(集団適応を図る活動)……理科実験、調理、スポーツ、ゲーム等
- ・行事(集団への帰属意識を高める活動)……宿泊体験活動、館外学習等

③ 運営

教育支援センター「やまびこ」: 総合教育センター内にて運営
開館時間 月～金 9:30～15:00 (水曜日は9:30～12:00)

指導員 センター長1名、指導員3名、学習支援員、指導補助員
 ※指導補助員は随時勤務
 対象 市内在住の小中学生（小学生は4年生以上）

4 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① 教育支援センター「やまびこ」入館・メンタルフレンドに係る情報交換を、学校、SC、SSW、総合教育センター教育相談員および教育相談担当指導主事等を行うことで、通館生に対する指導を充実させることができた。
 - ・学校訪問等による情報交換 59回
 - ・SSW等との情報交換 8回
- ② 教育支援センター「やまびこ」通館生30人のうち27人が部分登校や放課後登校ができています。
- ③ メンタルフレンドを受けた児童・生徒が学校への意欲を持ち、登校できるようになった。
- ④ 個別懇談会を年2回（7月、1月）、全体懇談会を年2回（4月、10月）行った。その結果、保護者同士の交流が生まれ、進路等についての情報交換ができた。

(2) 課題・改善策

- ① SC、SSW、教育相談、関係機関等との連携を継続するとともに、教育支援センターと学校が緊密に連携を行うことで、学校からの家庭訪問等に役立てるなど、学校からの不登校児童生徒への働きかけを促す必要がある。
- ② 教育支援センター「やまびこ」運営委員会をとおして、不登校児童生徒の実態を分析し、各校へ情報を発信できるよう、教育支援センターとしての役割を構築する必要がある。
- ③ 不登校児童生徒に対して個に応じた支援を充実するために、メンタルフレンド・やまびこ指導補助員を確保する必要がある。

5 実施状況

(1) 教育支援センター「やまびこ」について

① 在籍児童生徒の状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数
	平成31年度	在籍	男	0	0	0	0	0	0	3	3	2	
女			0	0	0	0	0	0	3	6	12	21	
体験入館		男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
		女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
計			0	0	0	0	0	0	8	9	14	31	
平成30年度末	男	0	0	0	0	0	0	4	2	7	13	36人	
	女	0	0	0	0	0	0	3	11	9	23		
	計	0	0	0	0	0	0	7	13	16	36		

② 学校復帰状況

通館生31人中29人（93.5%）が学校復帰（平成30年度36人中28人（77.8%））

③ 館外学習

- ・（宿泊体験） 7月1日（月）～5日（金）県立但馬やまびこの郷 5人参加
12月2日（月）～6日（金）県立但馬やまびこの郷 8人参加
- ・（館外学習） 11月6日（水）丹波年輪の里 10人参加

(2) 教育支援センター「やまびこ」運営委員会の開催

委員長 太成学院大学 伊藤 博 教授

副委員長 伊丹市立摂陽小学校 松山 和久 校長

第1回 令和元年（2019年）7月26日（金）

- 内容 ① 教育支援センター「やまびこ」の運営について
② 他市の適応教室の状況について
③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策について
④ 講話

第2回 令和2年（2020年）2月7日（金）

- 内容 ① 教育支援センター「やまびこ」の運営について
② 他市の適応教室の状況について
③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策について
④ 講話

(3) メンタルフレンド派遣事業

① 派遣状況

3 月 末 在 籍 人 数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	人数
	平成31年度	男	0	0	0	0	1	1	4	0	1	7	14人
女		0	1	0	0	2	0	1	2	1	7		
計		0	1	0	0	3	1	5	2	2	14		
平成30年度末	男	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5	6人	
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
	計	0	0	1	0	2	1	0	2	0	6		

② 登録メンタルフレンド数（大学生）8人 訪問のべ回数 96回

(4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」の開催

対象 市内児童生徒等の保護者

講師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 齊藤 誠一 准教授

講話と個別相談会「不登校児童生徒との関わりをとおして」

参加者 19人 平成30年度 参加者 38人 平成29年度 参加者 3人